

(国語科)

## 読み取る力を伸ばす工夫

大阪市立木川南小学校 青山稔 尾上真梨 西岡直子

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、一昨年度（平成 26 年度）より、国語科の研究を始めた。始めるにあたって、本校の児童の実態の分析を行った。国語の診断の結果をみると、物語文や説明文の問題の正答率が他の領域に比べて低く、文章を読みとる力が弱いことが明らかとなった。物語文や説明文に興味を持ち、積極的に発表をする児童がいる一方で、書かれている内容について理解できていない、そのために自分の考えを作ることができない、授業中の発表も少ないといった児童の姿が見られた。書かれている内容が正しく理解でき、それに対する自分の考えを作り、書いたり発表したりする力をつけたいと考え研究テーマを「読み取る力を伸ばす工夫」とし研究をスタートした。

研究一年目の平成 26 年度は、物語文や説明文の授業研究を行い、文章を正確に読み取ることができるようになるための手だてを工夫した。また、文章を読むことに慣れるよう読解プリントなどを活用し、スキルアップに取り組んだ。また、読書環境の整備にも取り組んだ。二年目の平成 27 年度は、物語文の指導に絞り、授業研究に取り組んだ。取り組みを通して、文章を正しく読み取る力は伸びてきたが、十分力がついていない児童もいた。その要因として、児童の語彙が少ないため、自分の考えを表現できないということがあると考えた。そこで、今年度は、読み取る力の向上とともに、語彙力の向上にも取り組むことにした。

### 2. 研究の趣旨

OECD の学習到達度調査の結果からは、今日求められている読解力として、文章・作品を正確に読み取る力だけでなく、文章・作品に対する感想・批評を形成する力も求められている。研究に取り組むにあたって、この二つを「読み取る力」とした。文章を正確に読み取る力をつけるために、昨年度までの研究で、以下のようなことを工夫することが大切であると確認した。

- 話のあらすじをつかむための挿絵の掲示
- 言葉の意味理解を助けるための具体物や写真の提示
- 人物の行動や心情を表す文を正確に取り出すためのサイドラインや視写
- 場面の様子を理解させるための動作化
- 学習のふりかえりに役立つ掲示や人物関係図の掲示
- 児童が取り組みやすいワークシートやノートの工夫

これらの取り組みをもとに、本年度は、さらに文章・作品に対する自分の考えをつくり交流するための工夫についても取り組んだ。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 国語科の授業の工夫

- 文章・作品について自分の考えを持つことができるようにするための工夫

#### 視点② 言葉の力の積み上げ

- 語彙を増やす取り組み
  - 国語辞典・漢和辞典の活用
  - 読解プリントの活用

#### 視点③ 読書環境の整備

- 授業での図書の活用

- 朝の読書タイムなど進んで読書をするための取り組み

#### 4. 研究の成果と今後の課題

##### (1) 研究の成果

- 文章・作品に対して自分の考えを進んで書いたり発表したりする児童が増えた。

低学年「お手紙」の実践では、登場人物の気持ちを書かせる前に、登場人物になりきらせて会話を音読させたり、動作化や劇化をさせたりすることにより、進んで登場人物の気持ちを書くことができるようになってきた。中学年「ごんぎつね」の実践では、「ごんは幸せだったと思うか。」について考えさせることにより、物語全体の内容に関わるような学習課題に対して、自分の考えを持つことができるようになってきた。また、高学年「注文の多い料理店」の実践では、宮沢賢治の表現の特徴や工夫を見つけ学ぶことにより、作品のおもしろさについて考えたことをより深めていく力もつけることができた。

三年間の取り組みを通して、指導者が子どもにつけたい力を考え、学習計画や学習課題づくり、ワークシートの工夫に取り組んだ結果であると考ええる。

- 読書環境の整備がなされたことにより、本に親しみ進んで読もうとする児童が増えた。

##### (2) 今後の課題

- 自分の考えを出し合い交流する力を伸ばすための取り組みが必要である。

交流したいと思うような学習課題の設定、話し合いのスキルを伸ばすなどの工夫を考えていかなければならない。

- 公立図書館、図書館ボランティアの方との連携をさらに進めていく必要があると考える。